

4. 「魅力ある学校図書館」をめざして

①小・中学校図書館の「図書標準」に対する現状と蔵書の充実について

【答弁】

学校図書館は、児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能を有しております。

更に、授業の内容を豊かにして、その理解を深めたりする「学習センター」や、情報の収集など「情報センター」としての機能も有しており、これらの機能を発揮させることで「学校教育の中核」たる役割を果たすように期待されていることから、図書館資料を充実させることは重要であると考えております。

議員ご質問の「図書標準」に対する現状としましては、蔵書率は年々増加傾向にあり、5年前の状況と比較しますと、小学校で9.7%、中学校で9.5%と上昇し、平成28年度末現在において、小学校全体で107.1%、中学校全体で90.6%となっております。

しかしながら、小学校で4校、中学校で6校が100%に達していない状況でございます。

教育委員会としましては、子どもたちにとっての読書活動は、単に学力の向上にとどまらず、感性を磨き、豊かな人間性を育む助けとなることから、今後も引き続き、各小・中学校へ配当しております図書購入費の予算確保に努め、図書標準の達成をめざし、図書館資料の充実に取り組んでまいります。